YOKOHAMA JUNKY
ADULT ONLY
ペアハンターの生態
Vol.2-3

あんっ
あっ
そうこれは仕方が無い事なの
あはっっ
あんっ
遊んでいるんだ
動いて!!!!!!
引きちぎるまで!!
ぎっ!!
ああぁぁぁ
ハ
ハ
ハ

……ん
な…なに…コレ？

ヒッ！

殺られる!!

ギ!!

えっ？

今のは骸蜘蛛？
恐ろしく邪悪な気配だった

なぜ私を襲わなかった？
それにこの惨状……ただ事じゃない

おかげで随分と
頭がすっきりした
あのおかしなまどろみが
吹き飛んでくれた

感謝しなくちゃ

まずはあの娘を
探さないと
きっと生きているわ

サク

パチ
パチ

……ここは？

むく

良かった
気がついたのね

まだ動いてはダメよ
酷い状態だったんだから

……先輩…
私は…いったい

お薬を塗ってあげるから
じっとしていなさい

はい はい

酷い目にあったようだけれど
深刻な傷はひとつも無いわ
毒素もほとんど抜けたみたい
これも日頃の鍛錬の賜物かしら

頑丈に産んで下さった
お母様にも感謝しないとね

生きていてくれて嬉しいわ

ぬる

ぬる

ぬる

貴女の肌とても綺麗ね

ハァ

ハァ

(ぎ)

にゅる

にゅる

にゅる

パサ

女同士は初めて？

は……
は……い……

チュ♡

チュ♡

大丈夫よ私が全部
してあげるから

力を抜いて……

ちゅ♡

ちゅ♡

そう…そうよ
いい子ね

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

パチ

パチ

心も体も陵辱され
経験したことの無い
強烈な絶頂に身を任せて
意識を手放した……

その時のことを
思い出してしまうと
乳首が立ってアソコが
濡れてしまう

忘れたいはずの記憶なのに
あの時の快楽がずっと貴女を
縛っている……分かるわ

……私も同じだから

私も犯されたわ
自分から腰を振って
快楽を懇願した

言葉の通じない獣相手に
服従の言葉を叫んで
倒錯的な悦楽に身を任せた……

仕方無いわ
快感には抗えないもの
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ズロ
ズロ
ズロ
んクッ♥
んクッ♥
ズチュ
ズチュ
チュ♥
チュ♥
クッチュ♥
クッチュ♥

ほら分かる？
私達のアソコが
お互いを求め合って
激しくキスしているの

吸い付いて
蜜を吐き出して
溶け合っていくの

あっ♡

あっ♡

ツル♡

ツル♡

私達は毒に冒されなくても
お互いの肉体だけでちゃんと
気持ち良くなれるのよ

ぐちゅ♡

はぁ♡

ビクッ

あっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡
ミュルル
ミュルル
ブルッ
ブルッ
イキそうなのね
私もよ　一緒に
イキましょう♡
もうダメ！
ああぁ♡
ああぁぁ♡
イクっ

んっ♡
ハ
ハ
ハ
ハ
ん
ドサ
着て　無いよりはマシよ
持ち主は？……いえ無いよりはマシです
帰り道が分かるんですか
何となくね

何ですかねコレ？
分からないわ
でもここを抜ければ
すぐ町まで戻れるはずよ
……これは

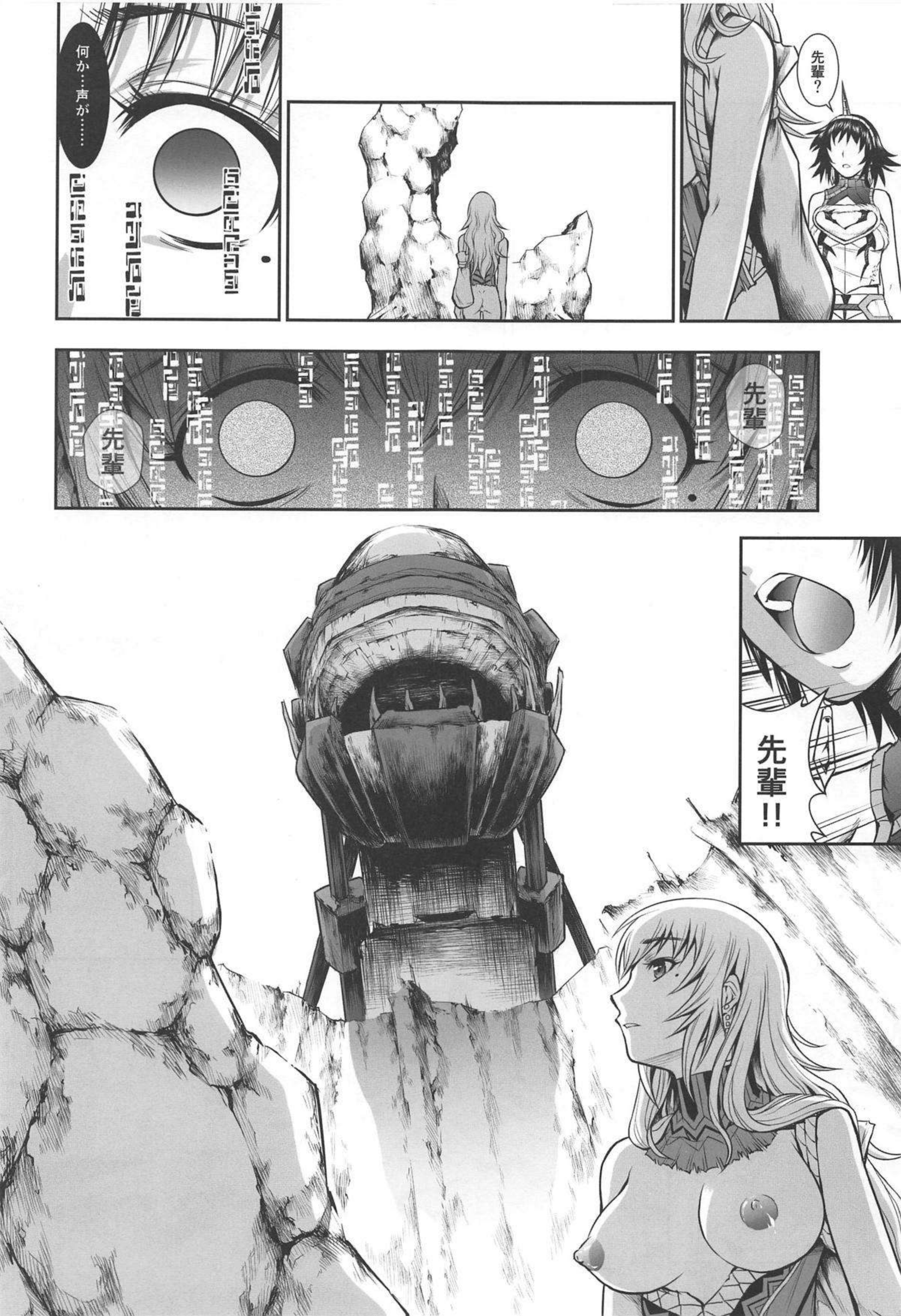
迂回路を探しましょう
ここは危険な気がします

あ　先輩

私達の帰る場所はこの先に
あるはず　ここは通らなければ
ならない道なのよ

……え？

行き止まりのようですね
一度戻った方が良さそうです


先輩？
先輩
先輩!!
何か…声が……

私達を襲ったヤツです

え？

覚えて無いんですか？

この巨大なモンスターに襲われて

私は何とか逃げ切れましたけど先輩は崖下に……

……そうか

……そうだ……でもアレは

アレは……

襲ってこない？まるで石像のような

気をつけて！それは本体じゃないわ！

ドズ

……ん

くそ！
何だこの糸は！

ギリ

ギリ

ギリ

ギリ

骸蜘蛛とは違う
繊細で無機質な糸だ
これはいったい……

そうだ！
先輩は!?

先…輩……？

ヘッ
ヘッ
ヘッ

ボルトが…
これを全部外せば
ギリ
ギリ
ブル
ブル
ブル

カン

あとひとつ…

ブル
ブル
ブル

ブッ

ガバッ
はあ
ビクビク

待って!!
イッたばっかりなのに
チンポがかってに
せいえきがかってにぃ

あっ
あっ
カク
カク
カク
カク
ブッ
ビキッ
ビキッ
ドク
ドク
ドクドク
ドク
ドク

ビクッ
ビクッ
あっ♥
うっ♥
ぶちゅ♥♥
ずぶ
ずぶ
ずぶ
ずぶ
ずぶ
ガシャ
外れた！

状況は分からないけど
とにかくこの場所から
離れないと
ズズン…
タッ
ドガ
なん…だ!?
体が…動か…ない……
ドリ

私は何をしている!?

ん♡ ん♡ ブッ ブッ チュ チュ

催眠?……いや
さっきの糸か?
あれで体を操られて
いるのか?

それにしても
このペニスは何だ?
咥えているだけで
幸福で満たされ
た気持ちになる……

何を考えている!
糸で操られているなら
切ればいいはずだ
どこだ?どこに糸が?

あぁ……なんて幸せな
フェラチオなんだ……
夫でもこんなに満たされ
たことは無い……

糸で操られている
そんな風に考えて
いるのかしら?

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ムフッ ムフッ

ハァ♡ ハァ♡ ブッ♡ ブッ♡ チュパ♡ チュパ♡

それは違うわ
たとえ糸で体を操っても
女にペニスを生やすこと
なんて出来ないでしょう?

ヒク ヒク

そう　こんなに
素敵な事は出来ないわ♡

合成屋を知っている？

ゲイ

んっ♡

まるで魔法のように
防具を別の性能に
作り替える……
集会所でも少し話題に
なっていたわ

そうね
そんな怪しげな輩に
大切な防具を預けるはず
無いわよね

私のような愚かな
ハンターでないかぎり

とても良い防具に
なったわ
そして見た目は
まったく変わらない

誰にも気付かれることは
無かったわ……そう
あなたにも

なぜこんな話をするのか分かるかしら？

合成屋はある物質を使って魔法のような防具精製を実現したのよ

でもその物質には目に見えないほど小さな生物が付着していた

物質はその生物の巣だったのその生物は巣から離れると死んでしまう巣から離れる方法はひとつだけ

他の生物に寄生して体を乗っ取ること

合成屋はそれに気付かずにお金になる商売を始めた……とても危険な物質を使って

その物質がこの石よ

そう…私の防具にはその生物が無数に付着していたのよ

私の体は♡その生物に寄生♡され♡…おっ♡♡

おっ♡おほっ♡射精るっ♡♡♡♡

ハッ ハッ ハッ

ハッ ハッ ハッ

ハッ ハッ ハッ

ブル
ブル
フゥ〜♡
フゥ〜♡
フゥ〜♡
ゴポ
ゴポ
あ♡
あ♡
あ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

気にする必要はないわ
アレは私達を襲ったりしない
アレも私と同じ寄生された生物よ
脳に寄生されて思考を操られる「仲間」
でもアレは寄生主の要求に応えられる生物ではなかった
それでもアレは優秀だわ
普通のモンスターは寄生主の言葉を理解出来ずに暴走を始めるもの
内なる欲求を理解出来ないそれでも続く衝動を抑えようと力の限り暴れ始める
一言で言うなら　そうね寄生されたモンスターは『獰猛化』するのよ
アレは獰猛化しなかった唯一のモンスターきっと人間並に高度な思考能力を持っているのでしょうね
でもアレには致命的な欠点があるわ
あの骸蜘蛛！
アレは悠久の時を生きる孤独な古龍「つがい」が居ないのよ私達のように肉の悦びを分かち合える素敵なパートナーが

フフ♡
抵抗するのね
ギュ
貴女のそういうところ
とても愛おしいわ♡
ドロ
……でもね
言ったでしょう？
合成屋が精製した
防具がどんなものか
トロ
トロ
トロ
トロ
トロ
トロ
な何だこれは!?
まさか!?
この防具も!!
グチュ
グチュ
グチュ

逆らう肉体には苦痛を

逆らう肉体には苦痛を

従う肉体には快楽を

従う肉体には苦痛を

逆らう肉体には快楽を

逆らう肉体には苦痛を

従う肉体には快楽を

しぱっ
ぱっ

チュルル

ビク

あっ♡

ビク

あっ♡

ビク

ヒク

ヒク

ホカ

ホカ

寄生主の声が聞こえる？
声に従うのは堪らなく
幸福でしょう？

沸き上がってくる
感情が分かる？
今まで感じた事の無い
凄まじく強い性欲

私は貴女の中に
挿入れたくて
仕方が無いわ

貴女のおまんこの
温かさを想像するだけで
射精してしまいそうになる

貴女もそうでしょう？
私のおちんちんが
欲しくて堪らない
匂いを嗅いだだけでも
軽く達してしまう

ビク

ビク

もう分かっているでしょう？
寄生主が望むのは種の保存

ハッ
ハッ

寄生して他の生物の肉体を
利用しないと繁殖すら出来ない
私達はそんな生き物に体を
支配されているのよ

ハァ
ハァ
ハァ

挿入れてしまったら
どうなるか分からないわ
もしかしたら快感で脳が
死んで廃人になってしまう
かもしれない
寄生主に必要なのは私達の
肉体だけだもの

ヘッ
ヘッ
ヘッ

それでも挿入れたいの
貴女のまんこを犯せるなら
死んでも構わないのぉ♡

ヘッ

私も！私も先輩の
ちんこに犯して
もらえるなら
どうなっても
構いません!!

だから早く！
早く挿入れてぇ♡♡

ブッ♥
ブッ♥

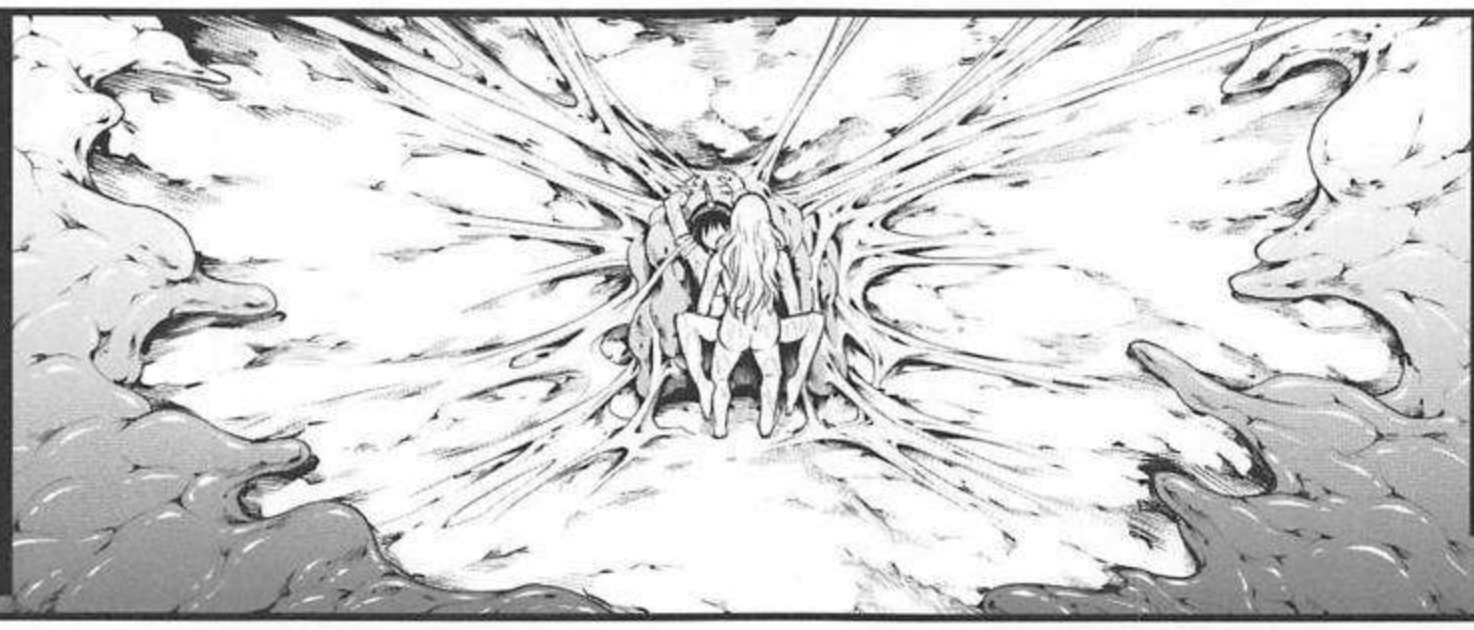
ジュボ

挿入した瞬間
彼女達の肉体は弛緩した

まるで事切れたかのように
全身の力が抜けお互いの体を
あずけ合う

汗　涙　涎　愛液
体中から大量の体液がにじみ出し
辺りに漂う牝の匂いをどんどん
濃くしていく

目にしみる程の濃厚な
女の性臭だけが　弛緩した二人が
性的な快感の極致を漂っている事を
表していた



寄生生物にとって
この場所で性交をさせる
事ができれば目的はほぼ
完了する

仲間を総動員して肉の器を
確実に受精させる事が
出来るからだ

ニュルル

ニュルル

寄生生物によって
ペニスと膣はお互いの
性器に最も適した状態に
作り替えられている

快感を強めるために
擦り合わせる必要など無い
挿入するだけで最大限の
快感を与え合う

ブリブッ

ブリブッ

ウ…♥
フ…♥

しかしその快感はあまりに強く
脆弱な人間の脳で受け止めきれる
ものではない

寄生生物達は宿主の脳が
死なないように
より多くの仲間を送り込んで
保護する

ビクッ

ビクッ

ビクッ

プキュ

プキュ

ニュルル

これにより彼女達の脳は
人間の許容範囲を超える
快感を受け入れることが
出来てしまう

蕩けきって弛緩している
体とは反対にペニスは
別の生き物のように硬く
ビクビクと脈打ち
射精を続ける

ビクッ
ビクッ

彼女の脳は大量の精液が
無限に吹き出している感覚に
陥っているが　実際の射精は
実に緩やかで長いものだ

少量の精液が少しずつ
漏れ出していく
受精が完了するまで
止まることは無い

寄生生物達は彼女達の
肉体の一部となり
延々と続く射精を支える

寄生生物によって最良の体位に固められ
受精のために常に肉体を最善の状態に
強制的に整えられる

疲労すら即座に回復されるため
どれほど長時間の結合も無理なく行われる
彼女らに許されているのは絶望的に
高まり続ける快感を感じ続ける事だけ

旦那さんの事が気になるのね…本当にいい子
モコ♡
モコ♡
ムラッ♡
ムラッ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
大丈夫よ浮気じゃ無いわ
辛い目にあったのだもの慰めが必要よ……そうこれは心の治療なの
クチュ♡
クチュ♡
貴女の状態を見れば何があったのか察しはつくわ
ちゅプ♡
ちゅプ♡
あんなに危険な精神毒に冒された女がどうなるのか
ニチュ…

寄生生物の卵を孕ませる事は
非常に難しく　場合によっては
何ヶ月　何年もの月日が掛かる
彼女らはその間　この場所で
快楽を感じ続けるだけの
奇っ怪なオブジェとして生きていく
事になるのだ

寄生された人間の末路――
人として　狩人（ハンター）として
決して失ってはいけない何かを
失い　それによって得られる
惨めな快楽に悦び　支配され
快楽が生の全てになる

人間として終わってしまった事に
気付く事も出来ない無様な肉人形だ

あ　あの……本当に
大丈夫でしょうか？

ええ
お任せ下さい

お預かりした
防具そのままの形で
お返ししますが
性能はこちらで用意した
上位防具になります

どんな目利きの
職人でも見破ることは
不可能です
決して集会所で恥を
かくような事は
ありませんよ

ありがとうございます
とても助かります

しかも
これっぽっちの
金額で引き受けて
いただけるなんて…

パサ

ハンターの皆さんの幸せの為ですから

ピク
ピク
ピク
ピク
ピク
ピク
ピク

END

ペアハンターの生態 vol.2-3

発行　YokohamaJunky

発行者　魔狩十織

発行日　2017.12.31

印刷　ねこのしっぽ

web　http://yokohamajunky.com/

email　mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び各種設定も一切関係ありません

尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です

ペアハンターの生態

Vol.2-3

†

彼らは外の世界から来た
彼らの周りに無数に存在する酷く原始的な生物は言語すら持たず
彼らの意志を理解できるだけの知能が無かった
唯一彼らの意志を理解した古き龍は悠久の時を生きる孤独な種で仲間が居なかった
彼らの目的は種の保存だ、1匹では意味が無い
次に彼らの意志を理解したのは2足歩行の小さい種だった
比較的高い知能を持っている、彼らの言葉を理解するには十分だ
彼らの巣に辿り着いたのは2匹の雌だったが、いずれにしろ性器を
変化させなくてはならない、2匹居る事が重要なのだ
彼らにとって好都合だったのはその2匹が雌同士の疑似的な性交を
喜んで行う個体だった事だ、性的な快楽に酷く弱く
自らの肉体に起こる未知の変化に対して恐怖よりも快感による幸福感を
優先して感じ取る、まさにうってつけの生物だ
ひたすら快感を与え続けてやれば従順に動く、もしかしたら
この生物はそのような種なのかもしれない
性の快楽のためなら自らの肉体がどうなっても構わない
そんな不可解な種なのかもしれない

†

※本書は18禁です、18歳未満の閲覧は禁止です。

Yokohama Junky